



【写真上】まぶたを負傷しながらもチームの勝利に貢献した富永選手。(宮崎日日新聞社提供)



【写真右】スーパーセーブを連発し、チームの失点を防いだゴールキーパーの河野選手。相手チームの研究を重ねた成果が出た大会だった。



全国高校総合体育大会で悲願の初優勝

小林秀峰高等学校

男子ハンドボール部



監督・選手紹介 (数字は背番号・◎は主将)
 監督：北林健治 (きたばやしけんじ) 1：河野光星 (かわのこうせい) ◎：荒木健志 (あらかけんし) 3：富永直斗 (とみながなおと) 4：原健也 (はらけんや) 5：山之口祐仁 (やまのくちゆうじ) 6：金丸拓矢 (かねまるたくや) 7：木場野雄吾 (きはのゆうご) 8：津山弘也 (つやまひろや) 9：吉永栄作 (よしながえいさく) 10：中野光貴 (なかのこうき) 11：津山弘巳 (つやまひろみ) 12：阿久根孝宙 (あくねたかひろ) 13：勝田慎哉 (かつたしんや) 14：中岡健太郎 (なかおかけんたろう)

2011 熱戦再来 北東北総体優勝までの道のり

- 1回戦 小林秀峰 51-7 松江工業 (島根県)
- 2回戦 小林秀峰 31-24 北 陸 (福井県)
- 3回戦 小林秀峰 35-28 駿台甲府 (山梨県)
- 準々決勝 小林秀峰 32-20 國學院栃木 (栃木県)
- 準決勝 小林秀峰 27-21 下松工業 (山口県)
- 決勝 小林秀峰 30-24 藤代紫水 (茨城県)

優秀選手賞 ※ () は背番号
 津山弘也 (8)、河野光星 (1)
 荒木健志 (2)、原 健也 (4)



合だった。舞台は3回戦へ。しかし、前半を同点で終える苦しい展開に、北林監督は「優勝候補に勝ち、気が抜けたのかも」と考えた。ところが、ハーフタイムに選手が「接戦を落とした」全九州を思い出せ」と声をかけ合う。選手の成長を感じた瞬間だった。

その後の試合も、選手による自発的な研究の成果と組織力を発揮。幾度となく襲うピンチには全員でカバーし戦い抜いた。荒木主将は「このチームは、何でも言い合える。衝突しても、すぐに仲直りするくらい信頼関係が深い。最高の仲間」とチームメイトを称える。

破己立命 (はきりつめい)

秀峰高校男子ハンドボール部には部訓がある。『破己立命』。「大勢の人と関わる中、自ら考えて動くことで、己の殻が破られる」。北林監督は今回の優勝で「選手は、多くの人が応援してくれていることが分かったと思う。より魂がこもった練習に取り組めるのではないかと話す。

現在は新チームになり、来年へ動き始めた同部。体育館には汗を流す選手の大きな声が響く。再び日本一へ。強豪という伝統を受け継いだ彼らの挑戦は続く。

8月3日、岩手県花巻市総合体育館。終了のブザーとともに歓喜の輪が広がる。小林秀峰高校男子ハンドボール部、悲願の全国初優勝。その輪の中心で北林監督が3度宙を舞った。「選手や保護者の夢が叶って本当に良かった」。北林監督は、この時の気持ちをこう話した。しかし、彼らが頂点に立つまでには、超えるべき課題があった。

危機感

時は遡り6月。秀峰高校ハンド部は、長崎県で開催された全九州高校ハンドボール大会に出場した。狙うは優勝。順調に勝利し、準決勝で地元長崎県のチームと対戦した。しかし、対策を練ってきた相手に思わぬ苦戦を強いられる。結局、1点差で惜敗した。全国での優勝を狙えるチームだと考えてきただけに、接戦での弱さが出たチームに北林監督は危機感を覚えた。

最高の仲間と共に

初戦を突破し、2回戦。相手は、チャレンジマッチでも対戦した前年度覇者の北陸高校だ。選手は、この日のために研究を重ね、イメージを磨いてきた。結果は思わぬ快勝劇。準備した成果が見事に発揮された試

チャレンジマッチ

しかし、そんな状況に転機が訪れる。7月に宮崎県で開催された「宮崎チャレンジマッチ」だ。今年はハンドボールに決まり、対戦相手は昨年の高校総体覇者である福井県の北陸高校に決定。出場が決まり、チームの雰囲気が変わった。「開催に尽力してくれた多くの関係者や、楽しみにしている観客のためにも下手な試合はできない」。選手たちは謙虚な気持ちで試合に臨んだ。結果は、前年度王者に見事勝利。チームは手応えと自信を得て、総体に臨んだ。